

★仲間とともにつながる学校へ★ 2026.2.9

## 学ぶ喜びを創る：生徒主体の授業への道のり



© NotebookLM

## 公開研のその先へ

公開研、本当にお疲れ様でした。無事に終わられたのは、皆様の協力あってこそです。でも！公開研はゴールではなく、スタートです。

「終わり良ければ」で幕を閉じるのは勿体ない。生徒の姿から得た気づきや他校の先生方と交わした言葉こそが、明日からの授業を「もっと楽しく」するヒントになります。

一人で抱え込まず、皆で知恵を出し合い、学ぶ喜びを生徒に還元する。そんな集団への第一歩を、ここから一緒に踏み出していきたいと思います。

## 2.2 公開研泰山先生のお話から

- デジタルとアナログの二項対立を超え、子どもが自分に合った学び方(手書きか端末か等)を選択できることが重要。
- 教師は「教えるプロ」から「学びの伴走者」へ転換し、1週間の見通しやルーブリックを最初に示すことで、子どもが自立的に学ぶ環境をデザインすべきである。
- 「学ぶ喜び」に向けて、教師自身が教科の壁を超えて主体的に学ぶ姿を見せること。ICT(ロイロノートや生成AI)を、単なる教員管理のツール(提出箱機能のみの活用)ではなく、子どもが自ら情報を収集・整理・分析するための「思考の道具」として使いこなせる力を育むことが必要。

## 研修のごあんない (Plantから申し込み・コピー機横にも案内貼ってます！)

来る3月2日、放送大学客員准教授の塩谷京子先生が来られる研修がほそごう学園で行われます。9月に塩谷先生が講師をされた石小の公開研に参加させてもらったときの内容もシェアさせていただいてますが、「情報活用能力」についての考え方のお話が分かりやすかったです。(私、情報活用の研修=ICT活用研修と思ってた時期が長かったです…違った)

今の子どもたちは、ネットのロコミやAIの要約に慣れすぎて、「自分の頭で考える必要性を感じにくく、生活の中で『自分の考え』をつくる工程が少ない」という言葉には、ハッとさせられました。研究会では、単なるタブレット操作の話ではなく、「言語能力」(※国語だけでなく、どの教科でも言語能力は必要)と「情報活用能力」をどうやって車の両輪として育てるか、あふれる情報を「整理」するだけでなく、「分析」して自分の意見にするにはどうすればいいかといった、日々の授業(特に探究的な学び)に直結するヒントを頂けると思います。身近な問いから、根拠を持って語らせる実践など興味深いお話も聞けるはずですよ。

子どもたちに必要な「情報を使いこなす力」について、一緒に考えてみませんか？  
ご都合がつく方、ぜひ、ご参加ください！

